

インターバンクの声（2016 年 10 月 26 日）

東京市場では静かな相場展開が続く今週の円相場だが、ニューヨーク市場では一昨日、昨日とやや値幅を伴った上げ下げを繰り返している。月曜日はマークイットの 10 月米購買担当者景況指数 (PMI) 速報値の強めの数字にドル買い、昨日はコンファレンス・ボードの 10 月消費者信頼感指数が先々月、先月と続いた上昇トレンドが途切れた上に 100 を割り込む水準まで低下したことがドル売りに影響した。普段は、マークイットとコンファレンス・ボードいずれの数字にもそれほど神経質な反応は見られないが、相場が両日ともテクニカル面からの重要なポイントに差し掛かっていたことや、ポジションの傾きが分かり難くなっていたことも影響していたようだ。さらに昨日は、米複合企業のスリーエムが売上高や利益見通しを下方修正、米家電大手ワールドプールがドル高によって海外事業の売上高が下落するなど、米企業の四半期決算に弱い内容が含まれていたことも影響した。相場がいったん走り出すとブレーキが掛り難くなることはよくあるが、ロンドン・フィクシングに向けてのドル売りが重なったこともドルの下げ幅を広げていた。東京時間は少しドル買いに慎重になる人が増えるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。